

別紙 7

チェックリスト

検査項目		チェックのポイント	欄
1	流入・放流経路の確認	設置届の排水系統図と同じか。	
2	設置場所の確認	設置届の設置場所と同じか	
3	種類及び処理対象人員の確認	設置届の浄化槽の種類及び処理対象人員が同じか。	
4	地盤改良工事(割栗地業)の確認	設置届の図面及び仕様と同じか。なお、掘削後に軟弱地盤と判明した場合、適切な工事を行ったか。	
5	捨て(均し)コンクリートの確認	十分な高さ調整が行われているか(50 mm以下)	
6	基礎コンクリートの確認	設置届の図面(縦、横、高さ、)と同じ	
7	漏水の確認	水張り後、24 時間経過後の状況を確認したか。	
8	埋め戻し土の確認	良質な土(山砂等)で埋め戻したか。	
9	水締め、転圧の確認	埋め戻し時に空隙が生じないように行ったか。	
10	建築物の基礎からの距離	建築物の基礎から 45 度以内に浄化槽が入っていないか。なお、入っている場合、擁護等を設けているか。	
11	駐車場仕様の支柱の設置(設置する場合に限る)。	設置届に支柱仕様となっている場合には、適切に設置したか、なお、支柱を設けない場合、不特定の車両が進入するおそれがある場合、支柱仕様が望ましい。	
12	地下埋設物の状況	地下埋設物(ガス管、水道管等)に損傷を与えてないか。	
13	地下水の状況	地下水は高くないか。なお、地下水が高い場合には、浄化槽の浮上防止策が講じられているか。	
14	流入・放流管渠の勾配	設置届の配管勾配図と同じか。(流入 1/100 以上、放流 1/200 以上)	
15	放流先の状況	放流口と放流水路の水位差が適切、逆流のおそれがないか。	
16	誤接合等の有無	生活排水は全て接続されているか。 特殊な排水は、流入されていないか。	

17	升の位置及び種類	起点、屈曲点、合流点、管口径の 120 倍を越えない範囲内等に升が設置されているか。 升は全てインバート升となっているか。	
18	流入・放流管渠及び空気配管の変形、破損のおそれ	管の露出等により変形、破損のおそれはないか。岩盤等で掘削できない場合で管が露出する場合には適切な保護等がなされているか。(最小土被り 20 cm以上)	
19	嵩上げの状況	嵩上げ高は 30 cm以内かつ維持管理を容易にできる高さ以内となっているか。	
21	浄化槽本体の上部及びその周辺の状況	維持管理が行いにくい場所に設置されていないか。	
22	ろ材、接触材、担体等の変形、破損、固定及び稼働の状況		
23	ばっ気装置、逆洗装置及び汚泥移送・循環装置の変形、破損、固定及び稼働の状況	空気の出方、水流に片寄りはないか。タイマーによる逆洗の場合には、仕様通りの設定になっているか。循環装置は使用人員(または処理対象人員)に合った水量に調整している。	
24	消毒装置の変形、破損、固定の状況		
25	ポンプ設備(流入・放流ポンプ)の設定及び稼働の状況	ポンプ槽に変形、破損、固定及び漏水はないか。 ポンプは 2 台以上設置されているか。 ポンプの取り外しは可能か。	
26	ブロワ(送風機)設置及び稼働の状況	GL より 10 cm以上の架台が設けられているか。 漏電の恐れはないか。	
<p>、上記のとおり確認したことを証します。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>担当浄化槽設備士の氏名</p> <p>(浄化槽設備士免状の交付番号:)</p>			